

南方熊楠「白井光太郎宛書簡」 昭和2（1927）年10

月24日

拝呈。増訂日本博物学年表六〇頁に

元禄十二年西京園丁某「千代見草」三巻を作り

上木すとあり。

是は何の事を述^{のべ}たるものに候や。蔵玉集は菊の事を

千代見草と異名するやう書きあり。又松をも千代

見草といふ様になにかにて読み申候。

右の一書は何に就てかき述たるものに候や。御高教をまつ。

早々敬具

小生十^と七^と八^と六^と七^と才の時（明治十七八年）東京図書館にて

見し上野博物館の後に博物局とかいふか有しそれより出せる博物雑

誌とか

二十冊^{たら}不足（挿入^ば…十冊^か斗りかたしかに覚え^ず）ありし。それに小

野職^{もとよし}愨^し氏の玉川^{すく}辺にて木^{すく}兔^く網を見た記事

ありし。この雑誌は貴殿御覧になりしことありや。博物学年表には名も出居らず。

本邦にて博物学専門の雑誌としては尤も早きものと
存候。